



いつでも
なんでも
いっしょうけんめい

真野川

稲井中3つの「あ」

あいさつ

あきらめない

あいてのために

【第40号】

発行日

平成26年3月13日

稲井中電話番号

0225-91-2314

FAX 91-2315

第67回卒業生 58名が巣立つ



▲写真は卒業式の前に撮影しました

3月8日(土)午前9時30分から体育館において、第67回卒業式が挙行され、平成25年度卒業生58名が学舎を巣立ちました。

卒業式は、在校生、卒業生の保護者、ご来賓の温かい拍手に迎えられての入場から始まりました。卒業証書の授与では、担任から名前を呼ばれた生徒一人一人が大きな声で「はい」と返事をし、校長先生からは一人一人に「おめでとう」という祝福の声がかけられ、卒業証書を渡していただきました。

3年間一生懸命やってきたからこそ、万感の思いがあったのでしょうか。卒業式の歌、そして校歌斉唱では3年生の男子も女子も涙で歌えない、そんな感動的な卒業式でした。

在校生である1・2年生も自分たちのすべきことをおさえ、立派にやり遂げることができました。特に3年生が涙で歌を歌えなくなった場面では、その分もカバーするんだという意気込みが歌声から伝わってきました。

ご来賓の方々「すばらしい卒業式だった。卒業生も立派だったが、1・2年生の姿勢もよかった」と、生徒全員でつくり上げた感動的な卒業式を誉めておられました。

校長式辞から 送辞

[抜粋]

在校生代表

佐藤

純

式辞の中で校長先生は石巻市民憲章を取り上げられました。

「まもりたいものがある
それは 生命のいとなみ 豊かな自然
つたえたいものがある
それは 先人の知恵 郷土の誇り
たいせつにしたいものがある
それは 人の絆 感謝のこころ
わたしたちは石巻で生きてゆく
共につくろう 輝く未来」

制定されたのは平成20年4月1日ですが、平成23年3月11日の東日本大震災以降、この市民憲章は別な意味をもつことになりました。

次代を担う君たちに郷土が期待するものがあります。その期待に応えられる大人へと成長していただくことを願っています。

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同心からお祝い申し上げます。

今、私たちは皆さんと過ごした日々を懐かしく思い返し、感謝の気持ちでいっぱいです。

皆さんのおかげで、この稲井中学校は楽しい学校になりました。

それは皆さん一人一人に、私たちにはないアイデアと行動力があつたからです。それに皆さんには団結力があつました。

皆さんの熱い思いは、一つ一つの行事や、普段の学校生活を生き生きとしたものにしてしてくれました。

皆さんの活躍があつたから、私たちは安心して中学校生活を送ることができました。皆さんは最高の三年生でした。

私たち在校生一同、皆さんが築いた「明るい校風」と60年以上続く稲井中学校の「伝統」を守り、さらに発展させていくことをここに誓い、送辞といたします。

吉田純一前教頭先生からお祝いのメッセージ

ご卒業おめでとうございます。多目的室での入学式からもう3年が経ちますね。

稲井中学校で学んだことは、これからの長い人生の大切な糧となるはずで、卒業生の皆様の夢と希望に満ちた門出を心から祝福するとともに、御校のますますのご発展を祈念いたします。

裏面に祝電祝詞をいただいた方々の一覧を掲載しております。

答辞

[抜粋]

卒業生代表

吉野 精 隼



本日は私たちのために、ご多用の中ご臨席くださいましたご来賓の皆様、並びに保護者の皆様、そしてこのような盛大な卒業式を挙げてくださいました永山晋校長先生はじめ、諸先生方、在校生の皆様卒業生を代表して御礼申し上げます。

思い返せば三年前、誰もが当たり前のように穏やかな春を迎え、期待に胸を膨らませて稲井中学校に入学するはずでした。しかし、想像を絶する災害が私たちの前に襲いかかり、日常生活を激変させました。東日本大震災は容赦なく私たちの大切なものを奪い、私たちは相次ぐ余震に怯えていました。あのときの光景は今でも脳裏に焼き付いています。

震災の影響で体育館が使用できなくなり、また、日々の生活も大変だったにもかかわらず、先生方や保護者の皆様のおかげで、多目的室を会場として入学式を無事に行ってくださいました。今でもとてもうれしかったことを覚えています。

優勝を目指し努力してきた中総体、最後となる私たちの必死な姿に、後輩たちも全力で戦ってくれました。惜敗を喫し、優勝という目標を叶えることはできませんでしたが、同じ道を歩む仲間との友情に熱いものを感じました。

今年の学校行事はどれも私たちの心に一生残る思い出となりました。しかし、振り返ってみますと、ただ単に楽しいことばかりではありませんでした。苦労が大きかった分、楽しさも大きかったのだというのが実感です。

私たちのそばにはいつも先生方がいてくれました。担任の先生との何気ない雑談で一緒に笑い、行事を終えた後には、悔しさ、そしてうれしさに涙を流したこともありましたが、行事の成功よりも先生方と腹を割ってふれあえた日々が、私たちが大きく成長させてくれたのだと思っています。

「規律ある笑顔の絶えない学校」、この目標を掲げて生活してきた三年間でしたが、今では目標を成し遂げ、立派な学校を築くことができましたと胸を張って言うことができます。そして、今ここに立ち、稲井中学校で学んできたことの中で無駄なこと何一つなかったのだと感じております。

在校生のみなさん、稲井中学校の伝統を皆さんの力によってさらに発展させてください。「いつでも、なんでも、いっしょうけんめい」の合言葉を忘れず、稲井中としての誇りをもって活躍されることを心から願っております。

保護者の皆様、自分たちの思いどおりにいかない時、生意気なことやわがままを言い、反抗して困らせたことは数えきれないほどありました。しかし、そんな私たちをいつも大きな心で包み込み愛情いっぱい育ててくださりありがとうございました。

ご来賓の皆様、本日ははじめ立志の会や中総体での応援など、様々な機会をとおして私たちを支えてくださいましたことに改めて感謝を申し上げます。

校長先生をはじめ、諸先生方には私たちのまっすぐな成長を願い、常に正しい方向に導いていただきました。先生方の教えを胸に刻み、これからもたくましく生きていくことを約束します。

当たり前のように毎日顔を合わせてきた仲間たちと同じ空間で同じ時間を過ごすのも、今日、この時が最後となりました。名残惜しい気持ちは尽きません。しかし、これから訪れる新しい出会いが、私たちをさらに成長させてくれると信じています。

私たちは第67回卒業生としての自信と誇りを胸に力強く歩んでいきます。

ご臨席の皆様のご健康と、我が母校のますますのご発展をお祈りしまして答辞といたします。



石巻の復旧・復興、稲井のますますの発展に君たちの力は必ず必要とされる。郷土を愛し、力を合わせて市民憲章の実現に努めてほしいと、この3年間でたくましく成長した卒業生にエールが送られました。